

公開実用 昭和50 102954



実用新案登録願

昭和49年1月31日

特許庁長官 斎 壱 勝

1. 考案の名称 バイニシヨリ ウチ
排便処理装置

2. 考案者 (出願人に同じ)

フリガナ 住 所 ④
氏名

3. 実用新案登録出願人

リガナ 佐 岡 香川県大川郡大内町東地34の1
フリガナ 氏名 マツオカトミオ

4. 代理人 定760

高松市郷東町583

(4566)

弁理士 馬 場 五 勇

5. 添付書類の目録

(1)	明細書	1 通
(2)	図面	1 通
(3)	願書副本	1 通
(4)	委任状	1 通

49 014283



方式
審査

明　　細　　書

1、考案の名称

排煙処理装置

2、実用新案登録請求の範囲

下側に油層(3)が上側に金属細片層(4)が夫々形成された導入するための排煙処理箱(2)を設け、前記油層(3)内に未処理排煙を導入管(5)を設け、排煙を油層(3)に円滑に導入しこの油層を浮上した排煙は金属細片層(4)を通過させ、その後この処理排煙を大気中に放出するための吸出装置(7)を設けて成る排煙処理装置。

3、考案の詳細な説明

本案考案は、重油等の燃焼排煙を簡単安価な構造により殆んど無色無臭で低濃度なものに処理できる装置を提供しようとするものである。

以下に本考案の一実施例を図面に基いて説明する。

(1)は燃焼、(2)(2)は処理箱で、その内部には下側に軽油(灯油)、重油等から成る油層(3)(3)がまた上側に金属細片層(4)(4)が夫々形成される。この金属細片層(4)(4)は金属物品の切削加工時に切りくずとして出る螺旋状絲

条にて製作することが望ましい。そして前記排煙(1)の上端(1)から未処理排煙を油層(3)内に導入するための導入管(5)が設けられる。(6)は一次処理箱(2)で処理されたものを二次処理箱(2)の油層(3)内に導入する導入管である。(7)は吸出装置で、モーター(8)により回転駆動される回転軸(8)に装着された二つの回転翼(9)(8)と、外箱(10)とから構成され、この外箱(10)内の入口側には、二次処理箱(2)で処理された排煙を真空吸出するための吸出管(11)が接続される。また外箱(10)の出口側には処理された排煙を大気中に放出するための放出管(12)が設けられる。なお13は貯油タンク、14は汚れた油及び凝結水を排出するための排出弁である。また高圧の排煙は油層(3)に導入する前に水で冷却するようにしてもよい。

本考は上記の如き構成であるから、排煙導入管(5)により一次処理箱(2)内の油層(3)に導入された排煙は、油層(3)中を浮上する間に殆んどの有害物質、すす及び水蒸気等を油中に溶出し又は吸着され、金属網片層(4)を通過する間に効率よく放熱すると共に残ったすす等を取除かれる。その後二次処理箱(2)で同様の処理を

受けて殆んど無色無臭で低温の気体となり吸出装置(7)

の働きにより吸出管端から大気中に放出される。

上記の様に本考案によれば、重油等の燃焼排煙は殆んど無色無臭で低温に処理できると共に、油層により金属網片層はさびることなく、また排煙中水蒸気が凝結しても油層の底部に溜まり好都合であり、装置全体を簡単安価な構造にできる等極めて実用的な多くの効果がある。

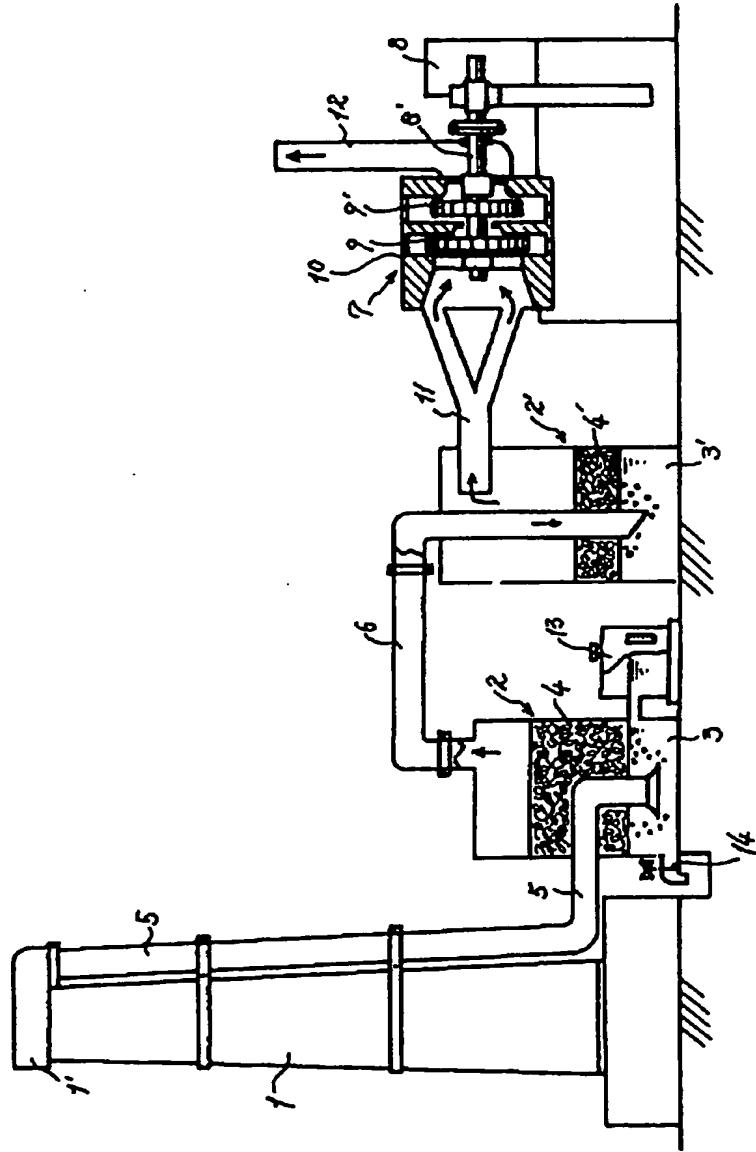
4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の一実施例を示す一部切欠側面図である

出願人 松岡吉生

代理人 局場五男

公開実用 昭和50-102954



出願人 松岡富生
代理人 馬場五郎

102954